

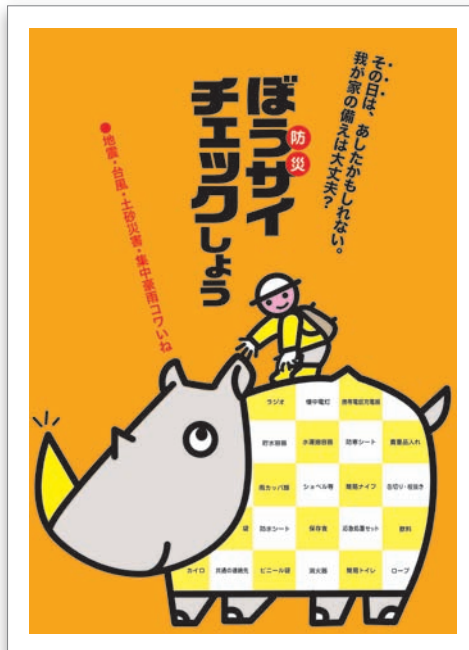
# ぼうさい

DISASTER MANAGEMENT NEWS

平成 25 年

春 号

2013 No. 70



特集

## 新しい津波警報



内閣府 (防災担当)  
Cabinet Office, Government of Japan

# 日本の火山

Vol. 25

静岡県・山梨県

ふじさん

## 富士山

### 日本一の山



春の富士山

**静** 岡県と山梨県の県境に位置する日本最高峰の富士山は、標高3776mの成層火山である。現在の優美な山体は、小御岳、古富士の上に生成された新富士火山で、今から約1万1千年前から活動を開始したものだ。

有史以降も、富士山は噴火を繰り返し、山腹や山麓で噴火が起きた際にできた側火山は約100個もある。

864〜866年の噴火では、大量の溶岩が流出し、当時北西麓にあった「せのうみ」と呼ばれた湖に流れ込み、現在の精進湖と西湖に二分した。古文書によると、その後も12世紀中頃までは、常に山頂に噴煙を上げていたとみられる。

1707年には、山の南東斜面で大噴火を起した（富士山宝永噴火）。火山礫や火山灰などの噴出物は、山麓では数mも積もり、その後偏西風に乗って100km以上離れた房総半島にまで降り注いだ。この噴火では、死者の記録はないが、現在の静岡県、神奈川県、東京都では噴出物による農耕地への大きな被害が生じた他、流出した火山灰による河川氾濫などの二次災害も発生し、長期間、広範囲に影響を及ぼした。その後は、約300年にわたり大きな噴火のない状態が続いている。

#### 富士山

活動的火山及び潜在的爆発活力を有する火山に指定されている。平成19年12月1日に噴火予報を「噴火警戒レベル1、平常」と発表。その後、予報警報事項に変更はない（2月14日現在）。

## CONTENTS

- 2 日本の火山 Vol. 25  
富士山 (静岡県・山梨県)
- 4 特集  
新しい津波警報
- 8 特集 2  
震災から  
復興へのあゆみ
- 10 Disaster Management News——防災の動き  
・「第 28 回防災ポスターコンクール」  
受賞作品決定  
・「ひょうご安全の日 1.17 のつどい」  
・第 4 回 専門家会合・IRP フォーラム、  
「アジア防災会議 2013」開催  
・平成 24 年度政府総合図上訓練  
・「みんなの BOUSAI !! in 神戸  
～広がる共助の輪・ミーティング～」開催  
・1.17 防災未来賞  
「ぼうさい甲子園」の取り組み
- 18 やってみよう! 防災対策 第 4 回  
オフィス内の家具を固定しましょう  
～転落・落下・移動の防止対策を考えましょう
- 19 防災 Q & A  
介護を必要とする家族がいるので被災  
することが心配です。  
危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー  
国崎 信江  
一日前プロジェクト 第 25 回
- 20 過去の災害に学ぶ 36  
1914 年 1 月  
桜島大正噴火 その2  
鹿児島大学地域防災教育研究センター特任教授  
岩松 暉
- 22 防災リーダーと地域の輪 第 14 回  
日ごろの訓練が実を結んだ、  
消防少年団の防災マップ  
東京都「玉川消防少年団」

### 第 28 回 防災ポスターコンクール 防災担当大臣賞

### 審査員の声



さいとう あやの  
齊藤 綾乃さん



もみやま ともりのり  
初山 智則さん



はまた なお  
濱田 菜緒さん



いわた さぶろう  
岩田 三郎さん

- ・ 標語で新しいスタイルの呼びかけが出てきて、新鮮な感じがしました。
  - ・ 災害に日頃からどう備えたらいいか、いざとなったらどうしたらいいのか、よく考えた作品が多く見受けられた。
  - ・ 構図デザインもおもしろいものが多く、ポスターらしくないが考えさせられる内容のものも増えた。
- といったコメントをいただきました。(詳しくは 10 ページ)



# 新しい津波警報

## 東日本大震災の教訓

東日本大震災は、従来の津波警報の課題が明らかになった災害でした。

各地の津波観測施設で観測された津波の高さは、福島県相馬で9・3m以上、岩手県宮古で8・5m以上、大船渡で8・0m以上など。また、岩手県宮古市では、30mを越す遡上高（陸地の崖や斜面を駆け上がった津波の高さ）が確認さ

れたほか、仙台平野等では、津波が海岸線から約5km内陸まで浸水したところもありました。この震災による死者は、約1万6千人で、その多くが津波による犠牲者でした（2013年1月現在）。

この津波では、地震規模の推定が過小評価であったために、津波警報第1報で、予想される津波の高さが実際の観測値よりも低く発表されたことが、避難の遅れにつながった一因と考えられています。またその他の要因として、広帯域地震計（通常の地震計よりも長周期の波形を観測することができ、地震計）が振り切れたために、初期の段階で地震の規模（マグニチュード）を正しく把握できず、津波警報の更新が速やかにできなかったことなども挙げられています。

気象庁は、このような課題の改善に向けた検討を重ね、精度の向上と、避難行動に結びつく警報を目指して、3月から新しい津波警報を運用開始しました。

## 津波警報・注意報

津波警報は、津波による災害発生が予想される際に発表される重要な情報です。

津波に関連する警報等は左記の考え方に基づいて発表されます。

2013年3月から、新しい津波警報の運用が開始されました。

新しい津波警報では、津波により甚大な被害が生じた東日本大震災の教訓を生かし、避難行動を適切に支援するための改善がなされています。

これを機に、イザという時に津波から身を守る行動ができるように備えておきましょう。

# 津波警報・注意報の分類ととるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難。  津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れない。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。  人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。  津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。  養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

- ・震源が陸地に近いと津波警報が津波の襲来に間に合わないことがあります。「揺れたら避難」を徹底しましょう。
  - ・津波は沿岸の地形などの影響により局所的に予想より高くなる場合があります。より高い場所を目指して避難しましょう。
  - ・地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。
- (出典 気象庁パンフレット「津波警報が変わります」)

**大津波警報**  
住家の全壊が見られるなど甚大な災害となる恐れがある場合

**津波警報**  
陸上に遡上する津波が予想され、住家への浸水などの重大な災害の恐れがある場合

**津波注意報**  
沿岸部の海上、海中及び海岸付近へ注意を呼びかける場合

津波警報・注意報は、避難に当てられる時間を出来るだけ確保するため、第1報が地震発生後約3分で発表されます。そして、その後「予想される津波の高さ」や「津波の到達予想時刻」等の情報が発表されます。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定し、予想される津波の高さを数値ではなく「巨大」「高い」という表現で発表し、非常事態であることを伝えます。

「巨大」という言葉を見聞きしたら、東日本大震災クラスの津波の襲来を考え、ただちに、より高い場所に避難しましょう。

また、正確な地震の規模が分かっていた場合は、予想される津波の高さが、1m、3m、5m、10m、10m超の5つの区分で発表されます(5頁表「津波警報・注意報の分類と、とるべき行動」参照)。

津波の高さの予想に対し、各区分の高い方の値が、予想される津波の高さとして発表されます。例えば、3mから5mの区分の津波が予想された場合は、発表では「予想される津波の高さは5m」となります。この「津波の高さ」とは、津波がない場合の海面からの高さです(7頁「津波のメカニズム」参照)。

**津波警報の配信**  
気象庁から発表される津波警報は、防災行政無線、専用の受信機、自治体広報車、テレビ・ラジオなどを通して提供されます。また、携帯電話やスマートフォン等では、対象となる地域にいる場合、「津波

## マグニチュードは1つじゃない？

マグニチュードは、地震の規模を表す指標で、観測された地震の記録を用いて計算されます。様々な手法がありますが、気象庁では、気象庁マグニチュード (Mj) と、モーメントマグニチュード (Mw) の二つの方式が用いられています。

Mjは、地震発生から3分程度以内で計算可能で、速報性に優れていますが、マグニチュード8を超える巨大地震の場合、地震の規模を正確に表現できません。

一方のMwは、巨大地震についても規模を正確に表現できますが、周期数十秒以上の非常に長い周期の地震波も含めた解析が必要なため、推定には、ある程度時間が必要です。

津波警報においては、基本的に、迅速性に優れるMjで第1報を発表し、その後Mwにより必要に応じて情報が更新されます。

警報」が自動的に配信され、メッセージが表示されます。対象機種や受信設定の方法などの詳細を、携帯電話各社のホームページ等で確認しておきましょう。

なお、携帯電話等への一斉同報メールによる津波警報では、限られた情報のみが配信され、津波警報の更新や解除の通知はありません。詳細情報について、必ず気象庁のホームページや、防災行政無

線、テレビ、ラジオ等で確認するようにしましょう。

### 津波から身を守る

津波から身を守るための鉄則は、「すぐに避難」です。強い揺れ、あるいは弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、また、揺れがなくても、津波警報を見聞きしたら、自ら進んで、できるだけ高い場所に避難しましょう。

古くから何度も大津波の襲来を受けた東北地方には、「津波でんでんこ」、「命でんでんこ」という言い伝えがあります。「津波が来たら、家族がでんでんこでも、とにかく逃げる」という「自ら進んで避難」を促す教訓です。

東日本大震災後に内閣府等が被災地の住民の方に行ったアンケートでは、避難しようと思っただきっかけとして、「大きな揺れから津波が来ると思ったから」が最も多く、次いで「家族または近所の人が避難しようといったから」、「津波警報を見聞きしたから」、「近所の人が避難していたから」が多いという結果でし

た。地域における避難の呼びかけや、率先した避難が周囲の人の命を救うことに繋がっていることがわかります。

なお、実際の津波発生時には、予想されていた範囲よりも浸水が広がることや、浸水が深くなる場合があります。あらかじめ決められた避難経路や避難場所で安心せずに、より安全な場所へ逃げられないかを考えるなど、周囲の状況を見ながら自分で判断して、身を守る最善の方策を講じるように心がけましょう。

### 津波に備える

津波について知る、どのように避難するか考える、避難訓練をする。このような事前の備えが発災時の冷静な判断、適切な避難に役立ちます。

身近な日常でできる備えとして、自治体などから発表されている津波ハザードマップや海岸等に掲示されている津波標識を活用しま



しょう。

東日本大震災後、また、新しい津波警報に合わせ、多くの自治体が見直し、更新しています。常に最新の内容を確認しましょう。

### 避難場所・避難経路の確認

津波ハザードマップには、津波発生時に浸水が予想される区域や浸水深、避難場所や避難ビル、また各地点の標高・海拔などが明示されています。色々な場面を考慮して、自分の職場や生活圏の避難場

## 津波のメカニズム

地震が発生すると、海底が隆起あるいは沈降します。これに伴い海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するのが津波です。「津波の前には必ず潮が引く」といわれることがありますが、津波が引き潮で始まるとは限りません。津波を発生させた地下の断層の状況、また、津波が発生した場所と海岸の位置関係等によっては、最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。

### 津波は猛スピードで襲来し、陸地に近づくと高くなる

津波は海の水深が深いほど速く伝わり、浅くなるにつれて速度は遅くなります。しかし、遅くなるとはいっても、その速度は、海岸近くでもオリンピックの短距離選手並みです。

また、津波は水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくと後から来る波が前の津波に追いつき、高さが高くなります。

### 津波は膨大な力を持つ

津波は、波浪とは発生の仕組みも、その力にも大きな違いがあります。

波浪は、風の力で海面付近の海水だけが動きますが、津波は海底から海面までの海水が動くのです。また、津波は、波長（波の山から次の山までの長さ）が長く、数kmから数百kmにも及びます（波浪は数mから数百m程度）。波の高さは同じでも、津波で沿岸に押し寄せる海水の量は、波浪よりも桁違いに多く、すさまじい力で陸上に流れ込み、そして引いていくのです。

津波が陸上に及ぶと、たとえ浸水深が浅くとも、その流れの速さによって、屋外では人が巻き込まれ、住家まで浸水する恐れがあります。

### 津波は繰り返してやってくる

津波は、何度も繰り返し押し寄せることがあります。また、第一波の津波が一番高いとは限りません。津波は陸や海底の斜面で反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって非常に高い波となることがあり、あとからやってくる波の方が高くなる場合があります。

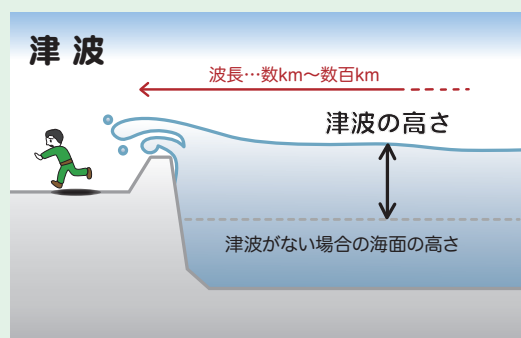
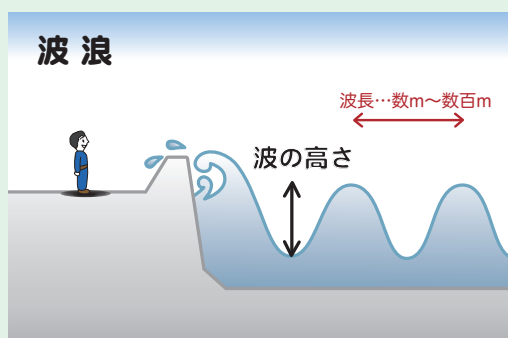
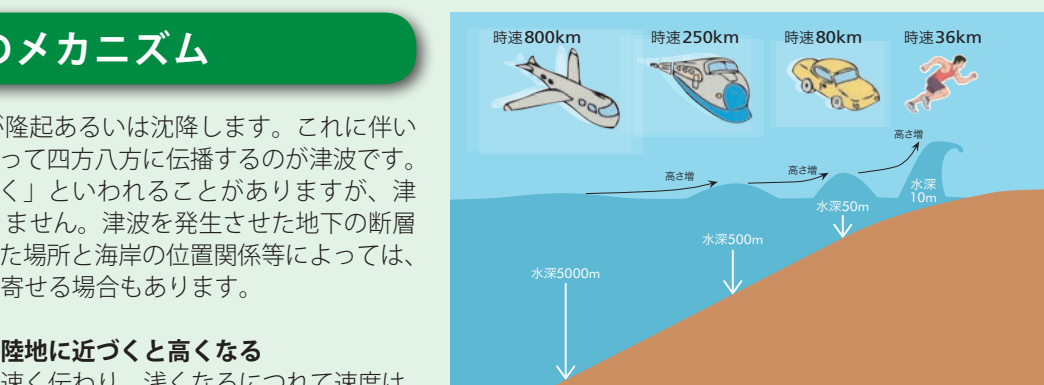
特に、海外で発生した地震による津波の場合は、水位の変動が長い時間継続する傾向があります。

津波警報・注意報が解除されるまでは、海岸に近づかないようにしましょう。

### 地形によって大きく変化

津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。岬の先端や、三陸地方に特徴的なリアス式海岸に多くみられるV字型の湾の奥などでは、津波の力が集中し、局地的に高くなる場合があります。

また、津波が陸上などを駆け上がる高さは、津波の高さの何倍にも達することがあります。東日本大震災でも、津波が陸上で崖や斜面などを20m、30mと崖を駆け上がった(遡上した)ことが確認されています。



新しい津波警報を知り、津波に備えましょう。イザという時の鉄則は、「**すぐに避難**」です。

ものがあります。海抜を明示したものと様々なものがあ

難ビル、津波避難場所、また、注意(津波危険地帯)、津波避難の際に目印となる津波標識もチェックしてみましょう。津波間を再確認できます。また、避難の有無がわかり、避難にかかる時間を再確認できます。また、避難の際に目印となる津波標識もチェックしてみましょう。津波注意(津波危険地帯)、津波避難ビル、津波避難場所、また、海抜を明示したものと様々なものがあ

### 実際に歩く

実際に避難経路を歩いてみることも大切です。地図だけでは分からなかった地形、避難経路の道幅、危険なブロック塀の有無がわかり、避難にかかる時間を再確認できます。また、避難の際に目印となる津波標識もチェックしてみましょう。津波注意(津波危険地帯)、津波避難ビル、津波避難場所、また、海抜を明示したものと様々なものがあ

### 所要時間の確認

避難場所などを把握したら、避難に必要な時間も確認しておきましょう。一般的に、5分間で避難可能な距離は、大人の標準的な歩行速度で300〜400m程度と考えられています。高齢者や幼児等の場合は、さらに遅くなることに留意しておきましょう。

# 震災から復興へのあゆみ

東日本大震災から2年、被災地内外の方たちによる復興へ向けた取り組みが進められる中、政府ではインターネットを通じて、各地の復興状況の様子をご紹介します。

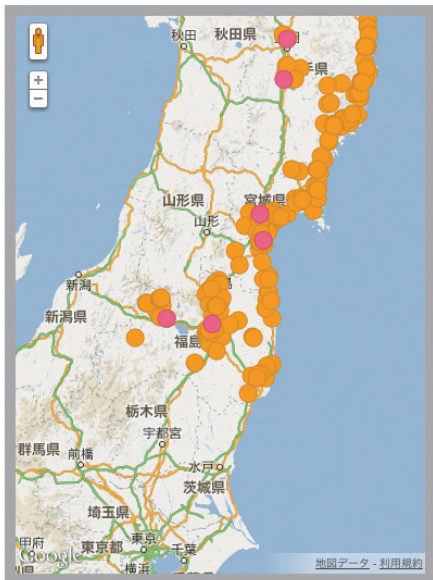
## 震災から復興へのあゆみ

このホームページでは岩手県、宮城県、福島県の復興状況をお届け致します。

政府広報

復興庁

岩手県、宮城県、福島県の復興状況を地図上に紹介しています。地図上のポイントをクリックすると、各地の復興状況を拡大写真でご覧いただけます。  
※拡大写真のタイトルをクリックすると、関連するテレビ番組、ラジオ番組を視聴いただけます。(関連番組をご覧になれないものもございます)



### 復興写真ギャラリー

更新日：2013年2月13日



宮城県岩沼市押分字西土手

毎週最新の動画・音声で配信中!

### 明日へと響け、復興のつち音。

岩手県、宮城県、福島県で復興に取り組んでいる人々のインタビューを通じて、被災地の今と、復興の様子がわかるテレビ・ラジオ番組をご覧ください。著名人からのメッセージも配信しています。

震災復興ポータルサイト「震災から復興へのあゆみ」では、岩手県、宮城県、福島県を中心に、各地の復興の様子を紹介する復興写真ギャラリーのほか、復興・支援情報、関連サイトへアクセスできます。

首相官邸「復興に向けて」や復興庁など、政府の復興への取り組みやお知らせの他、ボランティアをお考えの方にも役立つNPOの方々からの最新情報や、復興状況など、岩手県、宮城県、福島県の詳しい復興関連情報にもアクセスできます。

**あなたのまちの復興情報**

県や自治体ごとの最新に向けた取組などがご覧いただけます。

**東日本大震災からの復興状況**

ライブサイトをはじめ、復興の進捗状況について具体的な事例をご紹介します。

**復興庁**

復興に関する政府からのお知らせ  
被災地の復興事業に特化した機関として内閣に設置された復興庁のとりくみ、活動など最新情報について、また復興関連の取組や支援等についての最新情報をお知らせします。

**首相官邸** From Minister of Economy and His Cabinet

**復興に向けて**

首相官邸より、復興のこれからを伝えます。  
復興に向けた各府省庁の取り組みや今後の取組、政府からのメッセージなどをお伝えしています。

**お知らせ**

※本ページでは、震災の発生を踏まえ、被災地(2/16)、岩手(2/19)で復興フォーラムを開催します。

【岩手県、宮城県、福島県の詳しい復興・支援情報を知りたい方はこちら】

**岩手県**

岩手県庁の復興関連情報ページへリンクします。

**宮城県**

宮城県庁の復興関連情報ページへリンクします。

**福島県**

福島県庁の復興関連情報ページへリンクします。

【NPOの方々からの最新情報はこちら】

全国社会福祉協議会

助けあいジャパン

東日本大震災支援  
全国ネットワーク

【関連サイト】

希望郷いわて

あたらしい  
ニッポンを、いっしょに

みやぎ 復興プレス

宮城県復興応援プロ  
ココロプレス

みやぎ復興  
みやぎ復興応援

食材王国みやぎ

ふししまつから 始めよう  
福島県公式Facebook  
「いっしょに」はここから

福島県 公共土木施設  
復興・復興情報



岩手県、宮城県、福島県のテレビ、ラジオでは、「希望」をテーマにした復興番組が放映されています。テレビ番組は3分間、ラジオ番組は10分間、復興に向けて歩む方々の声や取り組み、また生活や事業の再建に役立つ情報をお届けしています。「明日へと響け、復興のつち音」のホームページでは、過去に放送したこれらの番組を視聴できます。



## 明日へと響け、復興のつち音。

このホームページでは岩手県、宮城県、福島県で復興に向けて歩む方々の声や取り組みのほか、復興に役立つ最新情報をお届けします。

トップ
番組情報  
岩手県 宮城県 福島県
応援メッセージ
ギャラリー
このサイトについて

### 最新情報

#### 岩手県

**TV 復興支援テレビ番組**  
大船渡市三陸町越喜来を「美しい自然に人が集う町」に・・・  
平成24年12月29日（土）放送



「美しい自然に人が集う町」を目指し、三陸町越喜来の深水地域にめん羊を放牧。復興へ景観美化を進める活動を行っている。

放送局：岩手めんこいテレビ  
番組名：希望一途

#### 宮城県

**TV 復興支援テレビ番組**  
復興の恩返し  
平成24年12月23日（日）放送



大勢のボランティアの活躍で津波に襲われたイチゴのハウスを復旧した農家が、感謝を込めたユニークな年賀状を作ります。

放送局：仙台放送  
番組名：ともに、希望を！

#### 福島県

**TV 復興支援テレビ番組**  
あの日の記憶を伝えたい  
平成24年12月29日（土）放送



語りべの安部あきこさんは故郷が津波に飲まれる光景を目の当たりにした。今「自分が後世に伝えなくては」と立ち上がった。

放送局：福島テレビ  
番組名：希望の扉

#### RADIO 復興支援ラジオ番組

被災地への歌を通しての慰問活動  
平成25年1月8日（火）放送

再生する

震災後から定期的に被災地を訪れ、歌を通しての慰問活動。

放送局：えふえむ花巻  
番組名：希望net

#### RADIO 復興支援ラジオ番組

家への閉じ籠もりを少なくするため行っているイベント活動について  
平成25年1月12日（土）放送

再生する

家への閉じ籠もりを少なくするため行っているイベント活動について。

放送局：仙台シティエフエム  
番組名：希望の社 仙台への想い

#### RADIO 復興支援ラジオ番組

新病院オープン  
平成25年1月9日（月）放送

再生する

古くから郡山市民の医療の拠点となってきた星総合病院。震災直後の充分に医療体制を整えることができなかった状況を伺う。

放送局：郡山コミュニティ放送  
番組名：放送元気ココから分HOPE STATION

「明日へと響け、復興のつち音」のホームページにある「復興支援ニュース」では、被災した方の生活再建、事業再建に役立つ政府や自治体の復興支援策や、各地で取り組まれている復興へ向けたさまざまな活動事例をご紹介します。

### 復興に向けた活動事例のご紹介

#### 福島県

**まちづくりに、さまざまな「知恵」「経験」「視点」が集約。  
復興まちづくりワーキンググループ**

宮城県の被災地、および被災地で活動する団体を支えるため、県域や市町で活動している中間支援組織やネットワーク組織等が定期的に集まり、情報の共有や課題解決を話し合う「復興みやぎネットワーク会議」。そこでは参加団体が「生活再建」「組織運営」「復興まちづくり」などをテーマにしたワーキンググループをつくり、それぞれのテーマに即した活動を行っている。

「復興まちづくりワーキンググループ」は2012年8月より復興まちづくり情報交換会として開催。メンバーには、宮城県のNPO、大学、建築家などの専門家をはじめ、阪神淡路大震災でまちづくりに取り組んできた団体などが参加。月1回程度の頻度で集まり、被災地の事例やそれぞれの知恵、経験、視点などを集約し、「よりよいまちづくり」について意見や情報を交換・共有している。



上：復興まちづくりワークショップの様子。さまざまなノウハウ・技術を蓄積した企業が、現場で活動するNPOや専門家、行政とともに、被災地の復興まちづくりを支えていくため、きっかけづくりの一助となっている。

震災から復興へのあゆみ

<http://www.gov-online.go.jp/cam/fukko/ayumi.html>

明日へと響け、復興のつち音。

<http://www.gov-online.go.jp/cam/fukko/index.html>

# 「第28回防災ポスターコンクール」 受賞作品決定

**内** 閣府と防災推進協議会では、幼児から大人まで国民のみなさまを対象に、毎年「防災ポスターコンクール」を実施しています。

このコンクールは、ポスターを描くことをきっかけとして、学校や家族で国民一人ひとりの防災意識をより高めて、災害による被害を少なくすることを目的に、昭和60年から実施し、今年で28回目の開催になります。

7420点の応募の中から、「防災担当大臣賞」、「防災推進協議会会長賞」、「佳作」及び「入選」を選出し、1月15日に「防災担当大臣賞」と「防災推進協議会会長賞」受賞者の表彰式を内閣府において開催致しました。

表彰式には、古屋防災担当大臣、近衛防災推進協議会会長（日本赤十字社社長）、

「ていこう」という強い思いが描かれており、すばらしい作品ばかりであります。」と述べました。

入賞作品は防災体験学習施設「そなエリア」や「防災フェア」、被災三県における展示を始めとする各種行事・施設で展示をするとともに、防災白書を始めとする内閣府が作成する冊子や、各種団体や企業における防災啓発ポスター等、防災意識の高揚、防災知識の普及・啓発のための活用を目的として様々な場面で広く活用してまいります。

来年度も開催致します。みなさまもポスターをきっかけに防災について考えてみませんか？

## 防災担当大臣賞（4作品）

### 幼児・小学1～4年生の部

齊藤 綾乃（さいとう あやの）さん  
宮城県／美里町立不動堂小学校3年

### 小学5・6年生の部

初山 智則（もみやま ともりの）さん  
愛知県／だれでもアーティストクラブ  
小学6年

### 中学生・高校生の部

濱田 菜緒（はまだ なお）さん  
兵庫県／加古川市立神吉中学校3年

### 一般の部



古屋防災担当大臣から賞状授与



近衛防災推進協議会会長から賞状授与

## 防災推進協議会会長賞（4作品）

### 幼児・小学1～4年生の部

加藤 慶（かとう けい）さん  
神奈川県／アトリエENDO 小学1年

### 小学5・6年生の部

上甲 愛梨（じょうこう あいり）さん  
愛媛県／八幡浜市立喜須来小学校6年

### 中学生・高校生の部

熊谷 絵美里（くまがい えみり）さん  
宮城県／栗原市立金成中学校3年

### 一般の部

後藤 はるか（ごとう はるか）さん  
岐阜県／県立岐阜総合学園高等学校3年

佳作（10作品）  
入選（204作品）

受賞作品は次のURLからご覧いただけます。  
<http://www.bousai.go.jp/gyoji/> ⑤ [gyoji.html](http://gyoji.html)



第28回防災ポスターコンクール受賞者のみなさん

も出席。受賞者のみなさまに賞状と副賞が贈られました。  
古屋大臣は、挨拶の中で、「どの作品も、日ごろからどう備えればいいのか、いざとなったらどうすればいいのか、みなさんの『災害被害を少しでも減らし

# 「ひょうご安全の日 1.17 のつどい」



政府代表として式典に出席した西村防災担当副大臣

**阪** 神・淡路大震災が18周年を迎えた1月17日、兵庫県神戸市において、「ひょうご安全の日1・17 うご安全の日推進県民会議、会議会長兵庫（知事）」。

会場となった神戸東部新都心（人と防災未来センター接地）では、震災で亡くなられた方々への追悼の辞・献花が行われ、兵庫の未来に向けての1・17宣言がなされました。

同式典では、政府代表として、西村防災担当副大臣が出席し、政府代表の言葉を述べました。東日本震災の被災地の皆様を含む、約2千人の方々が出席され、震災で亡くなられた方々への追悼の想いを深め、安全安心な社会づくりへの誓いを新たにすつどいとなりました。

会場では、行政機関やボランティア団体による各種展示、炊き出しなども行われ、防災への取り組みや防災ボランティア活動について、広く紹介されました。

また、交通機関が途絶した大震災時の追体験を行い、風化しがちな防災意識を新たにすると



「ひょうご安全の日1・17のつどい」会場にて（西村防災担当副大臣と河田恵昭「人と防災未来センター」センター長（右から2人目、3人目）（人と防災未来センター 提供）

ともに、来るべき災害に備えるため、震災モニタリング巡りや緊急時の避難路、救援路として整備されている山手幹線等を歩く「1・17ひょうごメモリアルウォーク2013」も実施されました。

# 第4回 専門家会合・IRP フォーラム、 「アジア防災会議 2013」開催



「アジア防災会議 2013」等出席者による集合写真（前列中央：亀岡偉民内閣府大臣政務官）

平

成25年1月23日、兵庫県神戸市にてアジア防災会議が開催され、亀岡偉民政務官が開会挨拶を行いました。この会議は、

アジア各国の防災能力の向上及びアジア地域での防災ネットワークの充実・強化を図るため、アジア防災センター、内閣府（防災担当）及び国連国際防災戦略事務局（UNISDR）が共催するものです。亀岡政務官は、スピーチで東日本大震災から得た教訓を踏まえ、ソフト・ハード両面において災害に強い国づくりを行うことの重要性を強調し、また防災の主流化の更なる推進や、日本の知見を国際社会に発信することによって、2015年に終期を迎える国際的な防災行動指針・兵庫行動枠組（HFA）の後継枠組（ポストHFA）の議論にも積極的に参加していきたいと、日本の決意を述べました。会議では、衛星技術を活用した防災への取り組みや、民間セクターによる災害リスク軽減や経済復興に関するプレゼンテーションが行われるとともに、災害リスク軽減に向けた世界的なトレンド及びポストHFAの策定に向けての方向性が示され、参加者からは熱心な質問や積極的な発言があり、本会議は成功裏に終了しました。

また、アジア防災会議に先立つ1月21日と22日には、同じく兵庫県神戸市で、「東日本大震災にかかる第4回専門家会合」と「国際復興フォーラム2013」が開催されました。

この専門家会合は、東日本大震災の教訓と経験を広く世界と共有し、将来の防災に生かしていくため、国内外の専門家や研究者の参加を得て、内閣府等が定期的に開催しているものです。今回は、内閣府が国際復興支援プラットフォーム（IRP）と同様で、現在作成を進めている「東日本大震災復興状況レポート」の中間報告等がありました。

翌日の国際復興フォーラムは、IRPが内閣府、アジア防災センター等と共に、毎年開催している国際会議です。今年は、開催テーマを「都市の力強い復興（防災を取り入れた復興・開発計画づくり）」と設定して、奥山仙台市長に基調講演をいただいたほか、被災経験を有する国内外の都市や国際機関の代表者から、災害復興の教訓等について報告がありました。

昨年12月の国連総会において、2015年に国連が主催する第3回防災世界会議の開催国は日本に決定されています。日本政府は、ポストHFAの策定を巡る議論に、積極的に貢献したいと考えています。この度、神戸で開催された一連の会議の成果は、このポストHFAにも反映され、世界の防災・減災に役立てられることが期待されます。

# 平成24年度政府総合図上訓練

## I 訓練の実施概要

平成25年1月10日中央合同庁舎5号館2階講堂において実施した平成24年度政府図上訓練は、東京湾北部を震源とするM7.3の地震が発生し、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県の一部3県に最大震度6強の揺れが観測され、各地に甚大な被害が発生した等の想定<sup>(※)</sup>で、緊急災害対策本部の業務についてロールプレイング形式で行いました。

この訓練には、関係省庁、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市のほか、DMAT事務局、指定公共機関（独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構、日本銀行、日本赤十字社、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、日本電信電話株式会社、東日本電信電話株式会社、



訓練会場（プレイヤー）の様子

東京瓦斯株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社）も参加しました（約240名）。

## II 図上訓練の進め方

訓練を統括するコントローラーが付与する具体的な各種の状況（救助・救急、部隊・物資等の輸送調整、物資の調達、広域避難等に関する状況）に対応して問題を解決するため、訓練対象者（プレイヤー）自身が、情報の収集、状況判断、対応策等の検討を行い、その業務遂行能力の向上を図るとともに、関係機関との連携等に関する検証を実施しました。

## III 大規模災害発生時の対応

首都直下地震等の大規模な自然災害が発生し、緊急災害対策本部設置の方針の決定が行われたときは、内閣総理大臣を本部長として全閣僚で構成される緊急災害対策本部を設置し、政府の総力を挙げて被災地の支援に取り組みます。

緊急災害対策本部は、原則として官邸内に設置されますが、官邸が被災により使用不能である場合には内閣府（中央合同庁舎5号館）内、内閣府（中央合同庁舎5号館）が被災により使用不能である場合には防衛省（中央指揮所）内、防衛省（中央指揮所）が被災により使用不能である場合には立川広域防災基地（災害対策本部予備施設）内に設置されます。



統裁部（コントローラー）の様子

## IV 今後の課題

今回の訓練で得た貴重な成果を整理し、政府の緊急災害対策本部としての体制、業務手順の要領等に具体的に反映させるとともに、本部要員の災害対応能力の向上に努め、いざというときの備えに万全を尽くしていくこととしています。

※本訓練では、東日本大震災での教訓を踏まえ、「想定を超える被害」を意図的にシナリオに盛り込むとともに、訓練の臨場感を高めるために実在する建物の倒壊等を状況としておりますが、これら想定被害は、科学的根拠に基づく事態の蓋然性はございません。

# 「みんなのBOUSAI!! in 神戸 ～広がる共助の輪・ミーティング～」開催



パネルディスカッションの様子

1 月27日に兵庫県神戸市の兵庫県立美術館ミュージアムホールにおいて、「みんなのBOUSAI!! in 神戸」が広がる共助の輪・ミーティング（内閣府主催、兵庫県・神戸市後援）が開催されました。ボランティア元年と呼ばれ、「共助」による防災活動の原点となった阪神・淡路大震災から18年、神戸で芽生えた取組が進化し、東日本大震災等を経て、現在あらためてその活動が注目されています。

今回のイベントでは、住民による自主防災組織から学生や企業による被災地支援活動まで、多様な主体の先進的な取組を集めて、その課題や今後の方向性を考え、さらには「共助」による防災活動のつながりが深まる機会として、「広がる共助の輪」をテーマに、基調講演・パネルディスカッション・参加者との意見交換が行われました。

最初に、基調講演『防災とボランティアと共助の現状、そして今後への期待』では、室崎益輝さん（関西学院大学総合政策学部教授・ひょうごボランティアプラザ所長）より、阪神・淡路大震災から東日本大震災を通して進化した取組と内在する課題について説明があり、今後は、被災者に寄り添う視点を保ちながら、行政、コミュニティ、企業、ボランティア等がスクラムを組む「共創・協働社会の構築」が必要であるとの指摘がありました。

その後、パネルディスカッション「みんなで語る、多様な共助の広がり」では、鍵屋一さん（特定非営利活動法人東京いのち

のポータルサイト副理事長、板橋区福祉部長）、桜井政成さん（立命館大学政策科学部准教授）、青木杏奈さん（KOBEBE足湯隊リーダー）、西條剛央さん（ふんぼろう東日本支援プロジェクト代表、早稲田大学大学院専任講師）、長沢恵美子さん（一般社団法人経団連事業サービス総合企画・事業支援室長）、松田曜子さん（特定非営利活動法人レスキユーストックヤード理事、関西学院大学災害復興制度研究所特任准教授）、南嘉邦さん（旧居留地連絡協議会防災・防犯委員長）によって活発な議論が行われました。

また、会場では、約100名の傍聴者とパネリストの間での意見交換が行われたほか、インターネットによる同時中継や質問募集等も行われ、これらのインタラクティブな試みによって、会場全体で白熱した議論が行われました。

内容については、内閣府ホームページを御覧ください。  
<http://www.bousai-vol.go.jp/kyojo/>



基調講演を行う室崎益輝さん（関西学院大学総合政策学部教授・ひょうごボランティアプラザ所長）

# 1.17 防災未来賞 「ぼうさい甲子園」の取り組み

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の脅威や生命の尊さ、共に生きることの大切さを考える防災教育を推進し、未来に向けて安全で安心な社会をつくるため、子どもや学生が学校や地域で主体的に取り組んでいる防災活動を顕彰する事業を毎日新聞社及び(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構との共催により実施しています。



観光リーフレット作り  
に取り組む児童たち

今年度は五つ目の提言「未来へ向けて  
一歩一歩進むべし」を実現すべく、地元  
の商店や魚市場等、復興に向けて歩み  
始めた人々を取材。鉄ケ崎に残る美しい  
景色や自慢の施設等も調べた。  
現在、児童は観光の町、鉄ケ崎をPR  
すべく、防災情報を盛り込んだ観光  
リーフレット作りを進めている。

9年目となる今年度は、小・中・高・大学の4部門に計111団体の応募があり、津波対策の取り組みや理科や社会等の教科教育における防災教育の取り組みを対象とした特別賞を含む29団体が受賞。そのうち、グランプリやぼうさい大賞、優秀賞に輝いた団体など7団体が1月に神戸で開催した発表会で活動内容などを報告しました。

【グランプリ】  
「歩みだそう 未来への一歩  
〜命を守った知恵をもとに〜」  
宮古市立鉄ケ崎小学校(岩手県)  
今の6年生は、昨年度から「大震災を記録に残そう」と、「地震発生当日にどう身を守ったか」等を住民に聞き取り調査を行い、「地震がきたら 迷わず高台へ逃げるべし」等、五つの提言にまとめた。  
提言や調査、津波で流された幻の防災マップなどは冊子「歩みだそう未来への一歩〜命を守った知恵をもとに〜」にまとめ、地域等に配られた。

## 【ぼうさい大賞】 「繋がり、地域に貢献する防災学習」

徳島市津田中学校(徳島県)

今年度の3年生の調査テーマは「南海地震発生後の復興まちづくり計画」だ。夏休み期間中、6班に分かれて調査に12時間、まとめに70時間かけて、地震発生後の住まいをどうするか等を1356人に聞き取り調査した。その結果と、東北地方の各市町村で作られた東日本大震災後の復興計画を調べ、地域の事前復興まちづくり計画にまとめた。



復興まちづくり  
パネルにまと  
めた事前の  
地域計画を  
生徒たちが

2年生は、幼稚園児用に防災の紙人形劇、小学生用に地域の避難所の特徴や避難の心構えをまとめた「避難場所総選挙」、非常用持ち出し袋に何を入れればいいのかを学べる「非常用持ち出し袋に入れるベスト10」等の映像を制作。11月にそれらを使って出前授業をした。

## 【ぼうさい大賞】 「擬似津波実演会」

岩手県立宮古工業高等学校(岩手県)

平成17年度から機械科の課題研究で、宮古湾周辺の模型の製作を始めた。その後、津波発生装置も作り、県内各地を回り、津波が町を襲う様子を示し、津波の恐ろしさや浸水域を伝える活動をしてきた。

これまでに作った模型は9個。宮古市等に寄贈され、市役所分庁舎や市内の道の駅

等に展示されていたが、東日本大震災の津波で、道の駅に展示されていた模型は行方不明になった。



津波実演会で説明する  
生徒たち

昨年度は、高台移転等を考える際に活用できる宮古市中心部の「復興模型」を作った。今年度は東日本大震災で被害にあった宮古市の全域が入る模型を製作中で、この模型を使った最初の出前授業は今回グランプリを受賞した同市立鉄ケ崎小で実施した。

## 【ぼうさい大賞】 「いわてGINGA-NEETプロジェクト」

岩手県立大学学生ボランティアセンター(岩手県)

東日本大震災(平成23年)では発生3日後に陸前高田市、1〜2週間後には釜石市に入り、災害ボランティアセンターの運営を支えた。同年夏には、長期休暇を利用して被災地でのボランティア活動を望む全国の学生を受け入れる「いわてGINGA-NEETプロジェクト」を始めた。プロジェクトはその後NPO法人の活動に発展し、これまでに延べ1万人の学生を受け入れた。



自転車で大学周辺をパトロールしているメンバー

日常の活動における「川前パトロール」は、授業の空き時間等に大学周辺地域を学生が自転車でパトロールし、住民と一緒に手作りの防犯拠点を作った。

# 「2012年度防災教育チャレンジプラン活動報告会」の開催



2012年度防災教育チャレンジプラン実践団体集合写真

2月9日に、有明の丘基幹的広域防災拠点施設（東京都江東区有明）において「2012年度防災教育チャレンジプラン活動報告会」が開催されました。

防災教育チャレンジプランは、いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

東日本大震災以降、防災教育・減災教育に対する関心が高まっており、当日は、会場が満席となる盛況の中、1年間活動を実践した団体等の取組成果等が報告され、2012年度の実践団体のうち特に優秀な成果をあげたプランに左記の各賞が授与されました。

## ○防災教育大賞

### ・糸魚川市立根知小学校

「根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育2012」

## ○防災教育優秀賞（以下の2団体）

### ・千葉県立東金特別支援学校

「防災コミュニケーション&コミュニケーション」  
「シヨン」北之幸谷から山武郡市へ「防災ユニバーサルねっと」を広げよう」

・秋田県大館市立第二中学校  
「アヤマの里の防災リーダー目指して」  
「雨にも負けず雪にも負けず」

## ○防災教育特別賞（以下の2団体）

### ・気仙沼市立階上中学校

「総合防災訓練『共助』」

### ・わがやネット

「すすめ！かぐてんぼう隊」

各実践団体の取組の詳細は、左記のホームページで公開されていますので参照下さい。  
<http://www.bosai-study.net/top.html>



活動報告会で行われた実践団体の発表



# 第9回 「小学生のぼうさい探検隊 マップコンクール・表彰式」



各賞の代表児童、指導者、プレゼンターの皆様の集合写真

「ぼうさい探検隊」とは、子どもたちがチームになって楽しみながら、地域の防災・防犯・交通安全に関する施設や設備を見てまわり、その成果をチームごとに模造紙サイズのマップにまとめ、発表を通して、学んだことを参加者全員で共有するという活動です。

日本損害保険協会では、この「ぼうさい探検隊」を通じて作成されたマップを対象に「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」を実施しています。

今年度は、47都道府県の417校・団体、およそ1万3千人もの子どもたちがこの活動に取り組み、過去最多となる2018枚のマップが寄せられました。また、入選15作品については、去る1月26日に表彰式を行ったところです。

## 防災教育の高まり

今年度の応募作品は、自分たちの住んでいる地域の特徴をしっかりとらえたうえで、災害や事故について自ら考え、まち歩きや住民へのインタビューなども交えながら作成したマップを通じて地域や行政に対して提言を行うなど、例年にも増して内容が充実しています。特に防災をテーマとした作品ではこの傾向が顕著で、

全国各地で防災・安全教育の機運が高まっていることがわかります。また、低学年児童だけで頑張っており、低学年と高学年が一緒に活動した作品なども増えており、防災・安全教育の裾野の広がりが強く感じられました。

作品テーマとしては、迫り来る大地震の被害想定の見直しや昨年7月に発生した九州北部豪雨など、時事的な内容を敏感にとらえて活動した作品が目立ちました。また、市街地ならではの危険や高齢者の避難経路など、地域の特徴をしっかりと把握して活動した作品も増えています。

また、子どもたちの活動がきっかけとなって、探検に同行した地域の大人たちの防災意識も高まったといった感想も多く見られ、子どもたちの活動が地域全体を動かし、地域住民の防災意識の向上に好影響を与えていることがわかります。

ぜひ、より多くの地域で子どもたちと大人が力を合わせて、「ぼうさい探検隊」に取り組んでいただき、地域の安全・安心への取り組みをさらに充実させていただきたいと思います。

一般社団法人 日本損害保険協会  
長江廣美（ながえ・ひろみ）

小学生のぼうさい探検隊マップコンクール  
参加申込み  
<http://www.sonpo.or.jp/>

# やってみよう！ 防災対策

## 第4回 オフィス内の家具を固定しましょう

～転落・落下・移動の防止対策を考えましょう

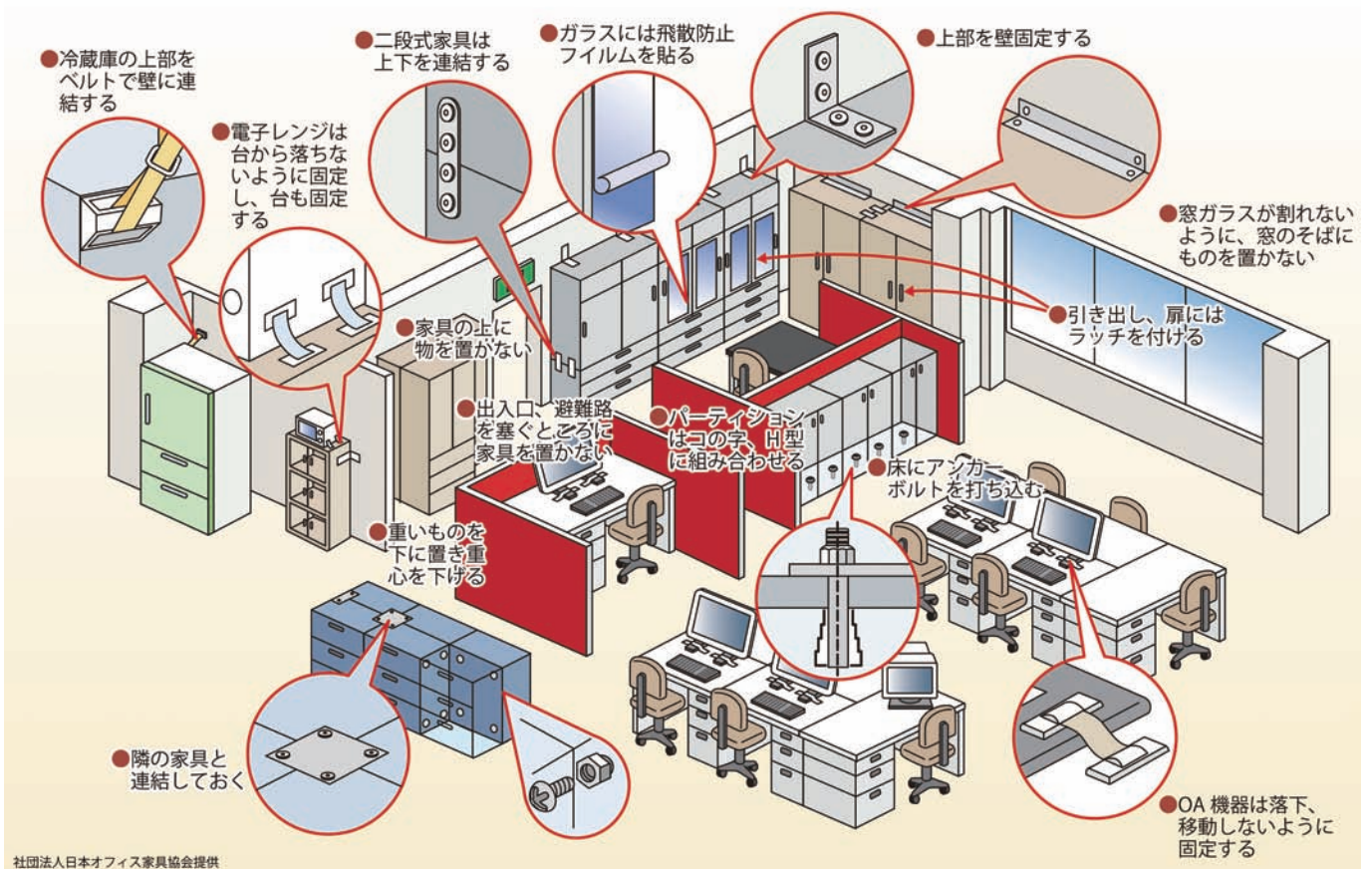
オフィスや店舗で仕事に使われている家具は、材質も配置もさまざまです。また、オフィスビルや店舗は部屋の作りが一般の家庭とは異なりますので、家具の固定の仕方もそれぞれ工夫が必要です。コピー機や自動販売機、什器やファイル・キャビネットのような重量のある物が置かれているところも多いでしょう。

これらは、十分に強度のある箇所に正しく固定しなければ、その固定した場所もろとも破壊しながら転倒・移動し、大変危険です。

皆さんが普段使っているパソコンは、地震で飛ばされないようデスクに固定してありますか？ デスクや仕事をしている場所の近くに高い家具はありませんか？ その家具の上に物が置かれていたり、不安定な収納の仕方をしていませんか？

家具の転倒・落下・移動による被害に遭わないために、まずは身近な場所の安全を図ることから始め、自分達で出来ること、専門家に頼むべきことを検討しながら、オフィス全体の総点検をしてみましょう。

### オフィス家具等の転倒防止対策の例



東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブックー室内の地震対策ー平成24年7月」より

# 介護を必要とする 家族がいるので 被災することが 心配です。

## 支援ネットワークに 相談し、積極的に地域と 関わりましょう。

### 防災 Q & A

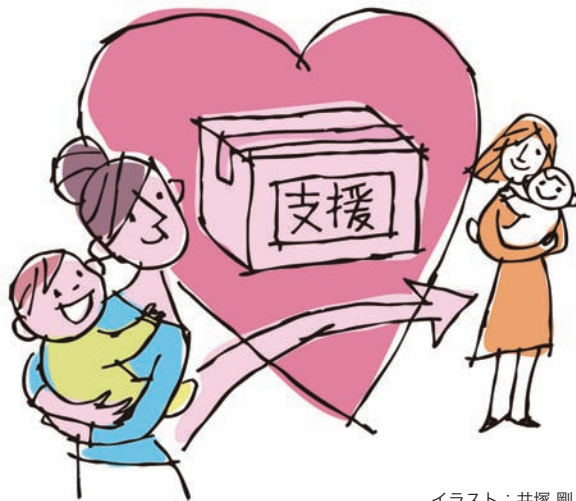
## 災

害発生時に、災害時  
要援護者やデリケー  
トな問題の多い女性

にとって心強いのは、困難なこ  
とや必要な支援の知識を持つ  
ている方からの支援です。東日  
本大震災でも、同じ立場の人やその人たちを支  
える組織からの迅速かつきめ細かい支援により  
多くの人が救われました。

たとえば、小さな子供を持つ家庭のために災  
害直後の震災疎開のお手伝い、支援物資の提供  
から、その後のニーズに合わせて子どもたちの  
食事のお世話、絵本読み聞かせや体遊び、育児

## A



イラスト：井塚 剛

用品の提供、健康診断、養育者の悩み相談、リ  
ラックスタイムの提供など多様な支援活動が行  
われました。

大規模な災害では、困難も深刻化し被災生活  
も長期化するため、家族だけで頑張ろうとし  
ても限界があります。困っているときに、確実に  
支援を受けられるようにするには日ごろからの  
取り組みが大切です。地域とのかかわりのなか  
で、まずは存在を知ってもらうことが大切です。

災害時の対応につ  
いて不安があるとき  
は自治体の担当課、  
社会福祉協議会、民  
生委員、支援ネット  
ワーク団体などの関  
係機関に相談しま  
しょう。

どこかで災害が起  
きた時には、自分  
だったらどのような  
支援があると嬉しい  
かをイメージしてみ  
ましょう。お互い様  
の精神で支援活動の  
ネットワークにも参  
加するようにしまし  
ょう。その経験は、  
必ずご自身の防災  
対策に役に立つはず  
です。

危機管理教育研究所 危機管理アドバイザー

国崎 信江（くにさき のぶえ）

阪神・淡路大震災を機に、女性の視点を生かして自然災害から子どもを守るための研究を始める。防災・防犯関連の著作、講演のほか、内閣府・文部科学省など多くの防災関連の専門委員も務めている。

## もし、一日前に戻れたら…

シリーズ

「一日前プロジェクト」 第25回

東日本大震災（平成23年3月）

### 係員の的確な避難誘導に感謝

（宮城県 20代 男性）

海にほど近い、大型商業施設で友人と買い物中に地震が発生。

確かにこれまでに感じたことのない強い揺れではありませんでしたが、ここまで津波が来るとは思ってもいませんでした。

当然、テレビもラジオも手元にありませんでしたし、揺れがおさまったこともあり、割と落ち着きを取り戻した時に、館内放送と合わせ、従業員と思われる方々が、ただちに海から離れた方向に避難するようにとの緊急の案内をしていました。

そんなに急がなくても大丈夫だろうと思いつつ、

周りのお客様達と同様にその指示に従い、徒歩で近隣の避難場所へ移動。

このときもまだ、正直に言うと、大袈裟だなーと友人と話していました。

そして、その数十分後、その施設まで津波が到達したことを知りました…。

幸いにもその施設からは全員が避難しており、皆無事であったことも後日知ることができました。

あのとき、従業員のかたの的確な避難誘導が無かったら、そのまま施設に残っていたかもしれません。今でもそう思うと怖くなります。

今はただ、あのときの施設の従業員のかたにただ感謝あるのみです。

1914年1月  
桜島大正噴火その  
2

## 桜島大正噴火の救援と復興

桜島大正噴火は、二十世紀初めが国が経験した最大の火山災害。当時、地縁社会が健在だったことから周辺町村から支援の手が差し伸べられ、行政や軍も敏速に対応した。しかし、溶岩や分厚い火山灰・軽石に覆われた住民は故郷を捨てて移住せざるをえなかった。

噴火の概要と土石流など二次災害を含む災害実態については前号を参照されたい。



「科学不信」の碑（東桜島小学校）

桜島は、大正3（1914）年1月12日午前突如大爆発を起こし、その夕刻には直下型地震も発生した。さまざまな前兆現象があり、安永噴火の伝承も残っていたことから、住民達は自主避難をしたが、鹿児島測候所が桜島噴火を否定したため、科学を信じた知識階級は島内に踏みとどまった。結局、冬の海を泳いで逃げる羽目になり、多数の溺死者を出した。そのことを今に伝えるのがいわゆる「科学不信の碑」である。曰く「本島ノ爆発ハ古來歴史ニ照シ後日復亦免レサルハ必然ノコトナルヘシ

住民ハ理論ニ信頼セス異變ヲ認知スル時ハ未前ニ避難ノ用意尤モ肝要トシ平素勤儉産ヲ治メ何時變災ニ値モ路途ニ迷ハサル覚悟ナカルヘカラス」

一方、青年会・婦人会・在郷軍人会など地縁組織が健在だったことから周辺町村から一斉に救援の小舟を出した。前日が日曜だったため、行政は若干出遅れたが、湾内停泊中の船舶を緊急徴用、救助船に仕立てた。陸軍もたまたま沖繩演習のために用意していた輸送船を向かわせ、海軍も直ちに佐世保港を出港し、折から帰港途上にあった艦船も桜島に向かわせた。安山岩溶岩の流速は遅いため、島にとどまっていた人たちは全員救助された。

鹿児島市内も地震被害と「津波が来る」、「毒ガスが来る」とのデマでパニックとなり、一時無人になるほど郊外への避難が続出した。

避難先では学校・寺院などに仮宿泊、婦人会などの炊き出しが行われた。地元富豪の寄付などが当てられたという。やがて郡

役所が避難所（仮設住宅）を建設し、避難民を収容した。

地震被害は一過性であり、現在なら地震保険に入っておけば、住宅再建も可能である。しかし、火山災害は長期にわたり、建物だけでなく土地まで失うことも多く、悲惨である。

これに対し、皇室からの御下賜金、三井・三菱など財閥からの寄付、東北九州災害救済会（総裁・松方正義元総理）や赤十字社・新聞社などが集めた義援金など多額の金品



瀬戸海峡3部落民救助の光景（山下兼秀 桜島大爆発絵巻（3巻のうち上巻部分）1916年）

のほか、海外からも寄付が寄せられた。

県も直ちに災害復旧費や教員給与費などを国庫から起債、国は無利子とした。さらに国は勅令で主務大臣（内務・大蔵・文部）の権限を県知事に委任、現状に即した機敏な措置が執られるようにした。

噴火後5日目には、熊毛郡長宛に移住の打診をし、北海道など各地に吏員を派遣、移住候補地の調査をさせている。移住には指定移住地と縁故をたどる任意移住地とがあった。指定移住地は国有林を県に無償で払い下げ、県はこれを罹災者に貸与、開墾が完了して一定の年数が経過したら、無償譲渡する仕組みだった。移住民には移住費・農機具・種苗費・小屋掛け費・家具費・食

料費などが支給された。3月12日には種子

島に移住が開始され、また、垂水村大野原では4月中に入植が完了している。このようにに敏速な措置が執られたが、国有林の原野を開墾するのは困難を極めた上、飲料水の入手に苦勞した。移住記念碑の横に水道記念碑が並んでいることがあるのは、その間の事情を物語っている。

子供たちは山道を近在の学校に通わなければならなかったが、それもできない僻地には、移住民のために尋常小学校が3校新設された。しかし、残念ながらいづれも過疎のため、現在休閉校中である。父祖の想像を絶する苦勞を思うと暗澹となる。

前号で述べたように、大隅半島では分厚い降灰のため、土石流や洪水が頻発した。まだ土木学会も生まれておらず、ましてや重機などなかった時代、モッコ担ぎの勤勞奉仕で堤防修築や河川改修、耕地整理が行われた。串良川沿いだけで12個も記念碑があり、同じ場所に2つあるところもある。修復と決壊が繰り返されたのである。

農地も酸性化したので、農事試験場が火山灰対策を懇切に指導したようだ。やはり水田のためには用水路の確保が先決で、耕地整理組合を結成して苦心惨憺している。なかには山重太吉翁のように私財を投げ打って完成させた人もいる。

桜島島内では前述の記念碑後段にあるように、次の噴火災害に備えて殖産興業に励んだ。代表的な人物が久米芳季西桜島村長である。島民丹精の農産物が鹿兒島の問屋

に安く買いたたかれていたのを改めるため、

対岸の鹿兒島市小川町に青果市場を設置したり、村営バスや村営フェリー事業を興したりした。桜島大根や桜島小ミカンなどの特産品と観光事業で、折からの新婚旅行ブームと相まって、村民税ゼロと言われる豊かな村を築き上げた。ようやく鹿兒島市と合併したのは平成の大合併のときである。

国や県の柔軟で迅速な対応や地縁社会が有効に機能したことなど、今日学ぶべき点が多い。

岩松暉（鹿兒島大学地域防災教育研究センター 特任教授）



大正時代の大中尾尋常小学校（南大隅町立大中尾小学校 所蔵）



第二回河川改修記念碑（鹿屋市高隈中央）（左）。裏面には、「運搬寄附 高隈小学校児童」などの文字が刻まれている（右）

## 日ごろの訓練が実を結んだ、消防少年団の防災マップ

東京都世田谷区で活動する玉川消防少年団が、地域のこと、そこに住む人たちのこと、そして自分たちができる防災活動についてあらためて考えながら初めての防災マップをつくりあげた。

**玉** 川消防少年団は、昭和52（1977）年から設立された。現在は、小学4年生

の父兄ら地域の大人、かつて団員だった高校生等の指導役28名の総勢71名が所属している。

活動は、日曜日を利用して月に1、2回程度実施され、1年を通したカリキュラムに沿って、防火・防災訓練のほか、老人会訪問等の社会奉仕活動などを行っている。

玉川消防少年団は、昨年初めて防災マップづくりにチャレンジした。団員が3つのチームに分かれて、それぞれ異なる区域の防災マップを作成し、第9回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」（2012年度）に応募したところ、世田谷区奥沢地区をまちなか探検して作成した「奥沢防災マップ」が見事「防災担当大臣賞」を受賞した。

奥沢チームが担当した地域は、周囲を私鉄の線路3本にぐるりと囲まれた住宅地で、最寄りの消防署や避難場所はどちらも線路を越えた先

に位置している。また地域には古くから住んでいる家庭が多く、高齢者の数も比較的多い。そこでチームは、災害発生時の緊急車両の通行や避難場所への避難に着目して調べることにした。

「線路に囲まれた地域で災害が発生したら、緊急車両が来られないかもしれない」「お年寄りは一ひとりでは避難が難しい」など、まちなか探検や鉄道会社、町会への取材を通じて、災害時の様々な危険の可能性に気づいた子どもたち。マップでは、地域内外への通行の要となる線路の踏み切りを、色別のシールや写真を使って、車が通行できる所とできない所との違いが分かるようにあらわした。また、地域で見つけた災害時の危険の可能性は、ポイントをまとめて一覧に書き出し、私鉄を運営する鉄道会社の安全対策や町会が行っている高齢者の見守り活動などもコーナーを設けて見やすく紹介し



玉川消防少年団のまちなか探検や防災マップづくりの様子。（写真左上から時計回り）鉄道会社へのインタビュー、防災マップづくり、防災マップコンクール表彰式、奥沢神社をまちなか探検

た。みんなで意見を出して話し合い、6年生がリーダーシップを発揮してまとめる。そんな作業を繰り返しながらマップをつくり上げた。

## 未来の防災リーダーたち

マップには、「災害時に自分がしたいこと」をチームメンバーひとりひとりが書き込んだ。「交和会（町会）の人と協力して、お年寄りを助けてほしい」、「ひなん場所が遠いので教えてあげたい」、「消火器やD級ポンプを使って消火したい」など、そこには日ごろの消防少年団の訓練で身についた「人を助けよう」という気持ちや危険に対する高い意識がうかがえる言葉が並ぶ。

玉川消防少年団の防災マップづくりは、地域の防災意識を新たにする機会をもたらすことにもつながったようで、地域の人たちからは、「線路に囲まれていることは認識していたが、その危険性については、今回初めて気づかされた」と



第9回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」で防災担当大臣賞を受賞した玉川消防少年団奥沢チームの「奥沢防災マップ」  
（一般社団法人 日本損害保険協会 提供）

## 防災リーダーの一言

粕谷正己（かすや・まさみ） 玉川消防少年団 団長

**玉**川消防少年団は、小学校4年生から中学校3年生までの団員で結成されており、将来の地域の防災リーダーとなる人材の育成並びに地域への防火防災思想の普及啓発を目的に活動しています。この度、作成した防災マップが、防災担当大臣賞を頂き、大変光栄に思っています。

初めてマップ作りにチャレンジしましたが、街歩きや地域の方々との触れ合いを通して、多くの発見をすることができました。私達指導者も、大人では見過ごしてしまうような事柄に子ども達が目を向けていることに驚かされ、感心させられました。

今後、このマップを多くの方々に見て頂き、普段見過ごしているような身近な危険性に気づいて頂ければ、それが一番大きな成果であると思っています。

そして、子ども達が、自分の力で地域の為に何ができるのかを考えてマップに書き込んだその気持ちを未来へ繋げてくれればと願っています。

いった声も聞かれた。

玉川消防少年団は、3月には中学3年生が卒団する予定だ。しかし今年も、高校生の準指導者として消防少年団に残ってくれるという団員がいる。未来の防災リーダーたちは着実に地域の中で育っている。

※「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」詳細は、17頁参照。

（写真提供 玉川消防少年団）

## 『ぼうさい』春号 [No. 70]

平成25年3月1日発行 [季刊]  
<http://www.bousai.go.jp/kouhou/>

### ●編集・発行

内閣府（防災担当）普及啓発・連携参事官室  
〒100-8969  
東京都千代田区霞が関1-2-2  
（中央合同庁舎5号館3階）  
TEL: 03-5253-2111（大代表）  
FAX: 03-3597-9091  
URL: <http://www.bousai.go.jp>

### ●編集協力・デザイン

株式会社ジャパンジャーナル  
〒101-0063  
東京都千代田区神田淡路町2-4-6  
エフアンドエフロイヤルビル7F  
TEL: 03-5298-2111（代表）  
URL: <http://www.japanjournal.jp>

### ●印刷・製本

株式会社ケーエヌコーポレーションジャパン  
printed in Korea  
『ぼうさい』夏号は平成25年6月発行の予定です。

### 編集後記

東日本大震災から2年が経過した。体験したことのない揺れや街を飲み込む津波の映像を鮮明に覚えている。

震災を受け、日本の災害対策は見直されている。本号の特集で取り上げた津波警報の改善もその一つだ。今後は、南海トラフの巨大地震や首都直下地震等大規模災害へ備える法制度や体制が整えられていく。

災害対策でもっとも大切なことは、一人ひとりが自分の命を守ることに全力を尽くすことである。どんな制度が作られても、これ以上の災害対策はない。この2年、広報誌『ぼうさい』の編集に携わってきた感想である。

自分の命を守り、周りの人の命を助け、助けられた人がまた人を助ける。こんな社会を目指し、そして自戒を込めてこの言葉を選ぶ。「すべては自分の行動にかかっている。」

ご意見・ご感想を、内閣府（防災担当）  
広報誌「ぼうさい」担当宛で、はがき、  
FAX、メールにてお寄せください。

# 東日本大震災 復興支援の情報サイト



各ホームページに、東日本大震災により被災された方、そして支援をお考えの方に役立つ情報が掲載されています。

## 日本政府を通じた東日本大震災義援金受付

皆様から寄せられた義援金は、地方公共団体を通じて、被災者の方々へ届けられます。  
全国の銀行、信用金庫、郵便局から指定口座「東日本大震災義援金政府窓口」へお振込み下さい。

### 受付期間

平成23年4月5日(火)から平成25年3月31日(日)まで

<http://www.cao.go.jp/gienkin/>

## 復興庁

復興庁は、復興に関する国の施策の企画、調整及び実施、また、地方公共団体への窓口と支援等を担う組織です。  
ホームページでは、復興交付金制度や被災者支援関連情報、また現地の取組や関連資料などの最新情報が入手できます。

<http://www.reconstruction.go.jp/>

## 「復旧・復興支援制度情報」のページ

国や地方公共団体が東日本大震災の復旧・復興のために整備している支援制度の検索サイトです。  
様々な支援制度を横断的に検索し、条件にあったものをすばやく探すことができます。  
県外避難している方からの相談にも、県名や市町村名から簡単に調べてご案内いただけます。

個人向け、事業者向け、それぞれの最新支援制度情報が確認でき、フリーキーワード、支援の種類やカテゴリ選択による絞り込みも可能です。

<http://www.r-assistance.go.jp/>

## 震災から復興へのあゆみ

<http://www.gov-online.go.jp/cam/fukko/ayumi.html>

## 明日へと響け、復興のつち音。

<http://www.gov-online.go.jp/cam/fukko/index.html>

政府では、インターネットを通じて震災からの復興状況をお知らせしています。  
岩手県、宮城県、福島県を中心に、復興に向けて歩む方々の声や取り組みを紹介するテレビ・ラジオ番組を視聴できるほか、各地で撮影された写真、関連サイトへのリンク、生活や事業の再建に役立つ情報にもアクセスできます。